

活躍する卒業生 | Active graduates

江里口宗麟 | えりぐち・そうりん

株式会社 日建設計 設計部門設計部



江里口宗麟

2016年度
大学院工芸科学研究科
博士前期課程
建築学専攻 修了



Fig.1——建築設計に携わるといふ夢を実現

Fig.2——研究室メンバーとの思い出の一コマ



最高の環境

「将来は建築設計の仕事がしたい」。ものづくりが小さい頃から好きだった私は、中学2年生の時にそう志し、高校生の時に進学先として京都工芸繊維大学を選びました。その理由としては、同大学の卒業生が建築業界の中でも特に意匠設計（デザイン）の分野に人材を多く輩出していることをホームページなどで知り、自分の将来の夢を考えると最良の大学だと考えたからでした。実際に大学院も含めた6年間を通して、その選択は間違っていなかったと実感しましたし、ご指導いただいた多くの素晴らしい先生方、共に切磋琢磨する同輩、尊敬する先輩や後輩に囲まれて過ごした経験は人生の糧となりました。特に、大学時代の大半の思い出が詰まっている「24時間開いている製図室」では、数多くの設計課題に取り組む中で、時に自問自答し、時に周りとの意見をぶつけあひながら、苦しくも一番楽しい時間を過ごせたように思います。そして、卒業した身ではありますが、そういった長く続く伝統にも似た環境とKYOTO Design Labをはじめとした新しい取り組みで、世界をリードする建築の学び舎としてこれからもあり続けてくれることを願っています。

大海を渡っていく力

大学の設計課題では、敷地や施主、予算などといった建築設計を考える上での前提条件や要素が仮想であることが多く、いわばプールで泳ぐ練習をしている感覚に近いものでした。それが実務となると海に出たようなもので、先述の全ての要素が現実として存在し、その違いは波となり、容赦なく襲い掛かってきます。正直、その波の高さや激しさに溺れてしまいそうになることもあります。今はそれを越えていく時に一番のやりがいを感じていますし、

それができるのは「工織で積み重ねた“泳ぐ練習”」があったからこそだと思います。“泳ぐ練習”とはいわば、「どういう建築・空間をつくりたいか」という根幹となる部分を試行錯誤したり、実際に手で図面を描くことの鍛錬を積み重ねたりすることであり、実務についた今、改めてその重要性を身に沁みて感じています。そしてその蓄積が建築を生み出す力になり、竣工の時には何ものにも代え難い喜びとなって返ってきました。これからも荒波に揉まれながらもこの大海を渡っていく力を付けながら、1人の建築家としてより一層社会に貢献できる存在となっていけるように努力を続けていきたいと思っています。

進学希望者へのメッセージ

「建築やデザインに関わることを学びたい」という方には、ぜひとも京都工芸繊維大学への進学を勧めたいです。それは、「工織がいかに恵まれた環境にあるか」ということを在学中に他大学の建築学生と交流した中で、折に触れて痛感することが多かったという経験があったからです。一口に“環境”と言っても、その解釈はさまざまだと思いますが、「自らが動けば応えてくれる環境」があるということは強くお伝えしたいです。例えば、OBやOGの方々や直接交流できる機会があることもその要素の一つですが、そこでは1回生の頃から丁寧に相談に乗ってくださる諸先輩方がいらっしゃいます。これは「自分が学生の時、卒業生の方々にお世話になったから、社会人になったら次は自分が何か工織生に還元したい」という想いを抱かれている方が多いという背景もあると思いますし、そういった縦の繋がりは工織の特徴でもあるので、これを読んでいる進学希望者の方にはぜひ、この松ヶ崎の地から飛び立つ選択肢を検討してもらえたら一卒業生として嬉しいです。

数々の設計課題にがむしやらに取り組んだ大学時代。
その泳ぐ練習の成果が実務という大海で生きている。